

日本の伝統・文化を継承する若者たち

# 明日への扉

Door to Tomorrow



Junichi Fujino

1983年滋賀県生まれ。現在、雲平筆の製法を日本で唯一受け継ぐ老舗「攀桂堂」に生まれ、第15代である父に弟子入り。製法の伝承者は代々「藤野雲平」を襲名する。



雲平筆(うんぺいふで)

平安時代に遣唐使であった空海が中国よりもたらした、「巻筆」の技によってつくられる筆。「有芯筆」とも呼ばれるほど弾力が強く、まるで芯があるような書き心地が特徴。

日本の伝統・文化を継承する若者たちを紹介する映像ドキュメンタリー「明日への扉」をぜひご覧ください。

MOVIE WebやTVなどでお楽しみいただけます。

Web版 パソコンやタブレットでもご覧になれます。本紙掲載以外に、多数の若者たちをご紹介します。

アットホーム明日への扉 検索



TV番組 ディスカバリーチャンネル(CS) 冠番組 「アットホーム presents 明日への扉」放映中 毎週金曜日 22:53~23:00

ビジョン ANA国際線「SKY CHANNEL」にて放映中

NEW!! 最新号のご案内 好評公開中

No.075 / 石見神楽面師 恵木 勇也 氏

## 筆 師

### 藤野 純一 氏

この国唯一の技を、  
未来に引き継ぐ。

琵琶湖の西に位置する滋賀県高島市の老舗に、日本にただ一つの製法を用いてつくられる筆がある。「雲平筆」と呼ばれるそれは、今から約千二百年前の平安時代に空海が中国より持ち帰った、巻筆の技で生み出される。

藤野純一さんは父である師匠に仕え、雲平筆づくりの修業に励む若き職人。元和元年(一六五五年)に筆工を開いた実家には、巻筆の技が子相伝により400年にわたって受け継がれ、師匠は第十五代に当たる。

きっかけは?

藤野「最初は書道の先生を目指してました。しかし、自分でも雲平筆をつくるうちにその魅力が分かり、この筆を次代につなげていきたいと思ったことが、筆師を目指したきっかけです」

雲平筆の一番の特徴は、まるで芯が

通ったような弾力のある書き心地。それを支えるのは数種類の動物の毛だ。

毛全体に弾力のある麴、毛先の弾力性に富んだ兎と狸、太くて硬い馬、柔らかい山羊、そして、中が空洞で墨を多く含む鹿。それぞれの毛の特性を熟慮したうえで混ぜる量や位置を決め、親指の先ほどの大きさの筆先に仕立てる。枝毛や切れ毛が極限まで取り除かれた筆先は見た目にも趣深い。

もともと雲平筆ならではの書き心地は、これだけでは生まれない。さらに重要なのが紙巻の工程。円錐形に整えた筆先を麻糸で締め上げ、縛った部分に和紙を巻く。これこそが空海が持ち帰った技であり、この良し悪しが筆の出来、つまり弾力を左右するという。

シワがよらないように、切れないように、指先に全神経を集中させ、力加減を微妙に変えながら和紙を巻く。息詰まるような作業を繰り返した後、白い山羊の毛で化粧を施した筆先を、軸

に入れる。そして、海草でつくったのりを付けて毛先を整えると、雲平筆の完成だ。

今後の抱負は?

藤野「雲平筆には細筆と太筆があり、太筆をつくるためにはより繊細な技と感覚が必要です。自分も一日も早く、師匠のように太筆をつくれるようになりたいですね」

400年もの長きにわたり、技を守り続けてきた先人のために、そして何より自分のために、今日も師匠と向き合いながら黙々と筆づくりに勤しむ。明日への扉を開け、また一歩、夢に近づく。

※2010年8月取材。掲載内容は取材当時のものです。

MOVIE MORE!! 日本にただ一つの技の継承に挑む姿を動画で紹介しています。ぜひご覧ください。